日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	プログラミング基礎
科目基礎情報				
開設学科	情報処理科	コース名	システム開発コース	開設期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数
単位数	2単位			授業形態
教科書/教材	アルゴリズムとデータ構造問題集、アルゴリズム解法(リックテレコム)			
担当教員情報				
担当教員	諸岡 瑞香	実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
学習目的				
<p>専門学校の目的は各分野の専門技能を身に付けたスペシャリストを社会に送り出すことである。その人材は専門分野に長けていることはもちろん、社会人としての資質も身に付けておく必要がある。本講座では働く意味を明確にし、学生と社会人との違いを認識するとともに、社会人になるための道筋、つまり就職活動の手順と方法を学ぶことが目的である。具体的には筆記試験の問題が解けること、履歴書やエントリーシートが書けること、面接試験に対応できることが目的である。</p>				
到達目標				
<p>プログラムを作成するにあたって、言語の文法の習得だけでは自由にプログラムを作成することができない。アルゴリズムを理解し、自身が考える処理の流れ図に当てはめて作成できるようになることが目標である。更に、アルゴリズムを十分理解したうえでプログラミングを作成する上で基本となる型や変数、演算、制御構造(条件文、繰り返し文)などを利用したプログラムの読解と作成ができるようになることを目標とする。(論理的な思考能力・実習に基づく専門能力・問題解決力)</p>				
教育方法等				
授業概要	<p>本授業では、アルゴリズムや流れ図の表記を理解し、実行環境の使用方法を習得する。プログラムを考えるうえで定石となるアルゴリズムを理解し、アルゴリズムの流れ図(フローチャート)として表記していく。その流れ図をもとに、基本文法を覚えていく。まず、基本構造となる、順次構造、分岐構造、反復構造を取得する。基本構造を組み合わせることで複雑な処理や判定が行えるように理解を進めていく。更に配列などのデータの集合体に対して、並べ替えや検索などの情報処理の基本的なプログラムをマスターしていく。</p>			
注意点	<p>テキスト、問題集、ノート、筆記用具、ノートパソコンを必ず持参すること。毎回の授業は、前の回までの授業の内容が身につくことを前提に行うため、必ず復習を行うこと。授業時間内に終わらなかった演習問題があった場合には、各自で次の授業までに終わらせておくこと。授業に出席するだけでなく、社会人への移行を前提とした受講マナーで授業に参加すること。特別な理由(路線の運休、法定伝染病など)のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画(1回～15回)				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	環境構築	環境構築、プログラム作成の流れを理解できる		
2回	基本文法と予約語	C言語の基本文法と予約語を理解できる		
3回	定数と変数	定数と変数、よく使うデータ型、printf関数を使うことができる		
4回	判断分と比較演算子	判断文と比較演算子、代入演算子、算術演算子を理解し適切に使うことができる		
5回	多分着構造	多分岐構造、入れ子の考え方とインデントを理解し適切に使うことができる		
6回	評価付けプログラム	評価付けのアルゴリズムを理解し、プログラムの作成ができる		
7回	for文	反復構造①for文による繰り返しを理解し適切に使うことができる		
8回	while文	反復構造②while文による繰り返しを理解し適切に使うことができる		
9回	do while文	反復構造③do while文による繰り返しを理解し適切に使うことができる		
10回	多重ループ	多重ループ構造を理解し適切に使うことができる		
11回	配列と添え字	配列と添え字、配列の並び替え処理(選択法)を理解し適切に使うことができる		
12回	配列の並べ替え	配列の並び替え処理(交換法)を理解し適切に使うことができる		
13回	線形探索	配列の探索処理①(線形探索、番兵法)を理解し適切に使うことができる		
14回	二分探索	配列の探索処理②(二分探索法)を理解し適切に使うことができる		
15回	総合演習	これまで学んできた内容を総合的に活用できる		